

令和4年度 入学式

神奈川県立城郷高等学校 校長 井澤 克仁

草木から大小さまざまな色合いの花が咲き、花の色が美しい季節となりました。260名の新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、保護者の皆様、誠におめでとうございます。教職員一同 皆さんを心から歓迎し、お祝いいいたします。

さて、新入生の皆さんは、9年間の義務教育を経て、今日からいよいよ高校生としての生活が始まります。昨年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、リスクを常に意識しながら、様々な制約の中で過ごす学校生活だったと思います。その中で、今までにない努力をすることで、合格を掴んだ皆さん。心から頑張りを讃えます。入学おめでとう。

皆さんは、様々な経験から学び、自信もついたと思います。しかし、学ぶことが終わったわけではなく、新たな学びが始まります。さて、今までみなさんは学びをどのように捉えてきましたか。中学校での勉強から、「一つの問いに対して、一つの決まった正解を示す」機会が多かったために、それが学びと思っている人が多いのではないのでしょうか。しかし、単純に物事の正解を文字通りに暗記することが、これからの日常生活や社会においてどれほど役立つのでしょうか。変化が激しい現代の社会で、この学び方が通用し続けるはずがありません。高校では、これからの社会を生き抜くために、常に「正解のない問いを解決するために最適・最良な答えを示す」ことを学びとして求めます。

少し難しいかもしれませんが、ここで、皆さんに質問します。皆さんは、「なぜ高校に進学したのでしょうか、ここでなぜ学ぶのでしょうか。」この問いに対して、どのように答えますか。進学した意味や学びの意味を考えたことがない。周りがそうしているから。あるいは勉強しなさいと言われたからなどが答えとしてあると思います。どの答えも、これが正解!という決まったものはないことを前置きした上で、先生や保護者から勉強を強制させられたから。「なんとなく・・・」という答えで、城郷高校で学ぶということ「最適な答え」として、絶対に出さないで欲しいと思います。

それはなぜか。高校での学びは、義務教育ではありません。高校は保護者、地域の人など様々な人の協力、また学校の運営は税金によっても支えられています。皆さんが学生としての立場を保障され、多くの友と時間を共有し、学びに集中できるのは、当たり前のことではなく、全世界でも極めて特別で、特権的なことなのです。

「メジャー」という野球マンガの主人公である茂野吾郎の言葉に、「他人(ひと)にやらされてた練習を 努力とは言わねえだろ。」というものがあります。好きな野球をやって、食べていくのに、指導者から言われた練習、与えられた宿題をこなすだけでやっていけるほど、プロ野球という世界は甘くないという意味が込められています。それは、皆さんにとって、学校や社会でも同じです。先生から、他人からやりなさいと言われたから、やっているものは、必要最低限のことです。与えられている宿題をこなしてただけで、「努力した」と満足していませんか。それだけでは、努力とは呼べないのです。

一人一人が自分なりの城郷高校にいる意味を持って、目標や目的を達成しようと、誰かからではなく、「自分から」課題に向き合うこと、その試行錯誤する過程こそが、真の努力ではないのでしょうか。

そのためにはまず、どうして城郷高校にいるのか、そして学ぶのか、その問いに「自分だけの最適な答え」を見つけなければなりません。「コロナだから」を、「できないこと」の都合の良い言い訳にして、目的もないまま、インスタグラムや Twitter やゲームなど、スマホの画面とにらめっこする日々を送ってはいませんか。このまま、なんとなく過ごしていていいのでしょうか。この機会に一度、自分の心に問い直してほしいのです。学ぶということは、「勉強すること」だけでなく、日常や学校生活も学びです。多くの友だちと関わって、部活動や学校行事にも積極的に取り組んで欲しいと思います。

保護者の皆様におきましては、今まで通り、学校であったこと、悩んでいることなどを聞いてあげてください。本校は各クラスに担任2人います。きめ細かい指導を心掛け、担任2人で連携しながら生徒の安心・安全な環境づくりに努めます。何かありましたら、いつでもご相談ください。

新入生の皆さんが心身ともに健康で、充実した高校生活を送れることを願い、校長の言葉とさせていただきます。